

# 【漢詩審査基準】

応募作品の審査にあたっては、下記の基本的な基準を満たすとともに、公正で詩心を十分に訴えた作品を選考するものとする。

項目		応募作品に求められる要件ならびに許容される範囲		
一、形式	二、押韻	三、韻字	四、平仄	五、その他
一、二、四句末に踏みます（正格） 「踏み落とし」「一句末に踏まない」も可とします	百六韻（平水韻）のうち平声・三十韻とします 「仄韻」も可とします	○平字 ●仄字	仄(二) 平(二)	仄(三) 平(二)
七言絶句のみとします	①平仄排列上の規則    二・四字目「不同」、二・六字目「対」 平仄排列 禁忌    「下三連」不可 ②平仄排列 禁忌    「弧平」不可 ③平仄排列 禁忌    四字目「弧平」不可 の場合は許容される (○    平字、●    仄字)	①「一・二句を反法、二・三句を粘法、三・四句すべてを反法とする」と (拗体) も可とします 「反法」    隣り合う一句の対応する一・四・六文字目の平仄を違えること 「粘法」    隣り合う一句の対応する一・四・六文字目の平仄を同じくすること	挟平格 (挟み平)    三句の下三字の平仄が ○●● の場合、●○● (挟み平) とすることも可とします	①禁忌    「同字重出」は許されません。ただし、意図的、効果的な場合のみ可とします ②容認    「通韻」、「冒韻」は可とします ③「通韻」の原則 (近体詩・絶句では左記規則・条件下でのみ通韻を可とします) 一、二、四句末に踏む韻を二種類の韻 (仮に A 韵、B 韵) とし、一句末の押韻を「A 韵」とし、二、四句末の押韻を「B 韵」とします。つまり、一句末「A 韵」、二句末「B 韵」、三句末「●」、四句末「B 韵」と押韻します この場合、「A 韵」、「B 韵」の二つの韻は、左記の組み合わせに限るものとします 許容される通韻の組み合わせ    「東・冬」、「支・微」、「魚・虞」、「寒・刪」、「蕭・肴・豪」、「歌・麻」、「庚・青・蒸」